

世界遺産委員会決議への対応方針（河川再生）

要請事項

- c) Developing a comprehensive river restoration strategy in order to transition wherever possible from hard, engineered infrastructure to employ nature-based techniques and rehabilitation approaches such as replenishment, vegetation, and the formation of different habitat types;
- c) 可能な場所では、強固な人工的インフラから、水流回復（replenishment）、植生回復（vegetation）、多様な生息地の形成をもたらすような、自然に基づく技術や再生アプローチの採用に移行するために、包括的な河川再生戦略を策定すること。

進め方

- ステージ1 包括的河川再生戦略の策定
- ・ 関係行政機関＋専門家による検討会（4島全体）を立ち上げ再生戦略を策定
 - ・ 河川再生戦略検討会への参画専門家（五十音順、敬称略）
久米元（鹿児島大学水産学部水産学科 准教授）
地頭菌隆（鹿児島大学農学部農林環境科学科 教授）
島谷幸宏（熊本県立大学 特別教授）※座長
立原一憲（琉球大学理学部海洋自然科学科 教授）
服部正策（元東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設 准教授）
横田昌嗣（琉球大学 名誉教授）
- ステージ2 包括的河川再生戦略に基づく各実施主体による取組

今後の予定（案）(2021-2022)

- 2021年度
- 12月 末 関係行政機関及び専門家ヒアリング等による河川戦略（骨子案）作成
 - 1月 第1回検討会にて河川戦略（骨子案）について議論
 - 3月 科学委員会を開催し委員からの助言を得る

○ 2022年度

- 5 月 地域連絡会議に進捗報告
- 6 月 第2回検討会にて河川戦略をとりまとめ
- 7 月 世界遺産委員会へのレポート作成
- 9 月 科学委員会を開催し委員からの助言を得る
- 10 月 地域連絡会議においてレポートの合意形成を図る
(12月1日 レポート提出)